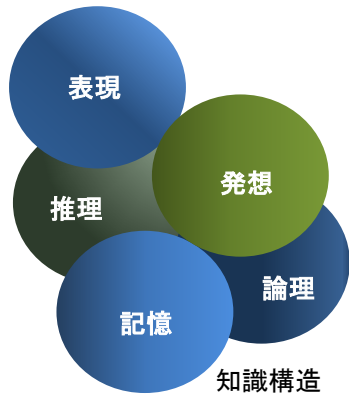


知識は事業である



知識は左図の5つを持って構成されている。

- 様々に記憶している事柄がある。
- 一つの論理が記憶を取り出して組み立てられる。
- 問題、課題に当たって推理され、論理が検証される。
- 現象理解と開裂に推理と創造が働く。記憶、論理、推理、創造が繰り返され、経験が体系づけられる。
- 伝承できる形になって表現として完結される。

知識なしに、事業は動かない。事業体すら作りえない。モノを作り出すための知識が要る。モノを社会に合わせるための知識が要る。モノを活用する顧客を探す知識が要る。モノを顧客に届けるチャンネルが要る。これも卓越した知識が要る。知識が事業を創りだす。

あの感動的な映画を知識が創ったと言えば、反対するだろうか。懐かしい青春の頃のときめきを、音楽が甦らせる。その音楽を知識が創ったと言えば反対するだろうか。知識と思想と感情を分類すれば、知識だけが映画や音楽を作ったとは言えない。だが、理解し、組み立て、表現したのは、機能化した知識である。この知識の種類は一つではない。

感動的な小説が、人々の心に働きかけ、影響し、人々が小説を模倣しようとする。だが、小説の作者は、社会に、現象に、感動し、知識を持って体系化し、多くの要素をもって組み立て、感動へと機能化させた。

憎しみを、悲しみを、知識が転換させる。憎しみを愛に変える、悲しみを喜びに変える、これらも知識が機能した。無味乾燥な語句、人材に関わるストレス耐性も、知識が転換させる。モチベーションも、一つの知識ではないが、知識が機能し、モチベーションをあげる。

もちろん、知識だけであるとは特定できない。知識の定義によって変わるかもしれない。哲学が知識全体の体系の中に入るとすれば、感動を知識が創り出したと言えるのではないか。

一つの科学が社会機能を変える。ITが産業のあり方を変えた。ITが弊害をも創り出している。ITが、正と負を創り出した。正にも、負にも、哲学が影響する。心理学や生理学が影響する。

大学の学科数は1500以上存在する。細分化された論文種類数は10万を超える。一つ一つの論文は感動を創り出さないかもしれない。複数の論文が集まって、社会学や、生活学、食文化、等々の知識に、哲学が加わり、多くの感動を産み出してきた。

半世紀も前に、インスタントラーメンが出てきた。初めて見る得体のしれないものが、随分と、真夜中の空腹を補ってくれた。インスタントラーメンが、感動と満足を提供した。

家電製品の誕生は、数々の感動と満足を作ってくれた。初めて見た扇風機は、夏の暑い夜を慰めてくれた。

初めて家に付けられた電話機は、めったに会えない人の声が聴けた。感動の一瞬である。電話機に感動したのではない。めったに会えない人の声に感動したのだ。小さい頃を、これを書きながら思い出している。

感動させてくれた数々の物がある。事業は感動を創り出している。事業は感動と満足の軌跡である。数々の物を知識が創り出した。自然科学だけの力ではない。科学全体である。もちろん、哲学が含まれる。哲学は、始めと最後のスパイスである。哲学は最初小さな感動を、ダイナミックに転換する。

知識を知識のために研究するなど、何の役にも立たない。感動のために、研究してもらいたい。自らの興味、自らの感動をモノに転換して欲しい。

知識は事業を作りだして展開する。事業は感動を産み出してくる。感動を産み出し続けなければならない。自らの知識を、感動へと置き換えられるように、機能化させなければならない。

企業には多くの種類の知識が集まっている。知識を集めて感動に転換する。そこに、事業の意味がある。多数の知識を、社会に適合させながら、感動を最大化するのが、事業目的である。

知識を体系化し、構造化し、機能化する。体系のための体系では、知識は生きない。体系化された知識を、再分解して、社会の過不足に合わせる。構造化である。構造化したとき、事業の卓越さを表す知識が分かる。そして、感動を創り出そうする。機能化である。

知識が事業を作りだす。逆に、事業は知識の結実である。

- ◆ 自らの知識を取り出して、分類してみよう。
- ◆ 持っている知識を活用している場面、ステージを表してみよう。